

II-4

少人数の学級経営を工夫しよう

(1) 少人数学級の特徴を生かした学級経営

特別支援学級は、児童生徒数8人で1学級として認可されており、通常の学級に比べ少人数での学級編制となっています。しかし、本道の特別支援学級においては、地域や障がい種別により、1学級あたりの児童生徒数が1名もしくは学級編制上2～3名程度といった、少人数の学級となっている状況も見られています。また、異学年であったり、実態が大きく異なったりする児童生徒が在籍することがあります。

学級経営を考える際には、在籍する児童生徒一人一人の障がいの状態や特性及び発達の段階に応じた指導・支援をより充実させるとともに、通常の学級との交流及び共同学習を適切に実施するなど、在籍する児童生徒が少人数であるという特徴を生かした指導の在り方について検討する必要があります。

特別支援学級の学級種別

- ・弱視特別支援学級
- ・難聴特別支援学級
- ・知的障がい特別支援学級
- ・肢体不自由特別支援学級
- ・病弱・身体虚弱特別支援学級
- ・言語障がい特別支援学級
- ・自閉症・情緒障がい特別支援学級

※1学級の児童生徒数=8人

少人数の
長所を生
かす

児童生徒一人一人の
障がいの状態や特性及
び発達の段階に応じた
指導・支援の充実

(2) 少人数学級での指導の工夫

少人数の学級であることを生かした指導を充実させるため、特に次の3点について取り組み、指導の充実につなげるようにします。

○ 児童生徒の障がいの状態や特性、発達の段階等に応じた指導・支援の充実

障がいの状態や特性、発達の段階等についての理解を深め、児童生徒の実態把握に基づいて学習内容や課題を設定するとともに、児童生徒が学びやすい学習環境を整備するなど、児童生徒への指導や支援の改善・充実に努めます。

参照する頁

- ・ III-1～7
- ・ IV-1～8
- ・ V-1～7

○ 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用

在籍する児童生徒一人一人について、個別の教育支援計画を作成し、家庭や関係機関等と連携を図ります。また、個別の指導計画を作成することにより、各教科等において実態に応じた適切な指導が行われるように努めます。

参照する頁

- ・ III-8、9
- ・ VI-5、6

○ 交流及び共同学習の適切な実施

相互の教育的ニーズを把握し、校内の協力体制を構築しながら通常の学級に在籍する児童生徒と日常の様々な場面で活動をともし、相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育むとともに、各教科等のねらいを達成できるよう努めます。

参照する頁

- ・ VI-1～2